錦江に生きる

じゅうにん目

押領司（おうりょうじ） 義人（よしと） さん（川北自治会）

真剣なまなざしで
塗装する義人さん（左）

鬼神舞を舞う恭平君と太鼓を
叩きながら見つめる義人さん（右）

このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第十回目は、川北自治会の押領司義人さんです。

旗山神社の神舞（かんまい）で太鼓を叩く5人家族の大黒柱・押領司義人さんは池田地区で自動車板金塗装業を営んでいる。

義人さんは高校卒業後、鹿屋市の会社で8年間、板金塗装の技術を学んだ後、転職した。その後に、自ら会社を立ち上げ、奥さんの優子さんと二人三脚で経営している。起業しようと思い立った理由は、仕事の合間に知り合いの車を塗装してあげていたら、義人さんの評判を聞いた人の車が家に置いてあるようになったという。それで、生涯の職業にしたいう。義人さんの人柄と腕があってこそ成せる業である。

義人さんは趣味の野球・ソフトを地元チームでしており、ソフトではエースとして幾度も地区大会などに出場し活躍している。また、冒頭で述べたように、旗山神社の神舞いでは太鼓の叩き手として伝統を継承している。更には、次男・恭平君（小6）も、最年少後継者として舞い手を務めており、親子二代で伝統と技術を後世に残そうと頑張っている。

義人さんに後継者について尋ねると、「今まで何人か弟子をとったが、なかなか長続きしない、きつい塗料で汚れる。何より技術習得に時間がかかる、若い子にはそれが耐えられないのかな?」と少し寂しそうに話した。続けて「自分の会社を残すというより持っている知識と技術を伝えたい。弟子入りは大歓迎」と話した。一番弟子入りして欲しいのは3人の子どもですか?と尋ねると「それが一番うれしい、でも強制はしない」とはにかんだ。

最後に、奥さんに起業には反対じゃなかったですか?と尋ねたら「今でも反対ですよ。早く辞めちゃえばいいのに」と…。義人さんの方を見ると、「嫁は頑張って揃えた機材も全部売り払うって言ってる。」と笑った。それを見て奥さんも笑った。一瞬心配したが、お互い信頼し合って、これからも一緒に頑張っていくという絆があるから笑って言える言葉なのだと気付いた。押領司夫婦は、地域と家族の絆を大切にする素敵な夫婦だった。

錦江町

思ひ出写真館（おもひでしゃしんかん）

昭和３５年
田代地区の集合写真

▲成人式を記念しての集合写真

▲夏季節保母講習での記念写真

写真のご協力をお願いします

「錦江町思ひ出写真館」に掲載する写真を募集します。撮影時期・場所・状況等を付けて、役場企画課へ持ち込むか郵送ください。お借りした写真は責任を持ってお返しします。掲載は受付順とさせていただきます。